

野洲市橋梁長寿命化修繕計画

背景・目的

野洲市では、令和6年12月現在において330橋(327橋の橋梁と3基の大型ボックスカルバート)を管理しています。野洲市の管理する橋梁の約92%が、20年後には建設後50年以上の高齢化橋梁となり、維持・修繕のための費用が今後ますます増加するものと考えられます。そこで、これら330橋を対象に、今後使用する見込みのない橋梁を撤去するとともに、使用する従来の損傷が大きくなってから補修を行う事後保全型の修繕から、損傷が小さいうちに計画的に補修を行う予防保全型の修繕に切り替え、維持管理費用の削減を図ることを目的に橋梁長寿命化修繕計画を策定しました。今回の改訂では、新技術等の活用など事業費のさらなる削減の目標を追加しました。

橋梁管理について

野洲市では、日常の道路施設パトロールにおける橋梁点検の他に、橋梁の専門業者による定期点検を行っています。

このように点検する事によって、いち早く橋梁の傷み具合を把握し、この結果をもとに傷みが大きくなる前に補修・補強を行うことで橋梁の寿命を延ばし、維持管理にかかる費用を縮小するように努めています。

近年では、早期補修が必要と判断された16橋について補修工事を実施しています。今後も点検の結果早期補修が必要と判断された橋梁は、対策を実施していきます。

長寿命化修繕計画の効果

長寿命化修繕計画により野洲市が管理する330橋を計画的に維持補修すると、その効果は令和2年の長寿命化修繕計画の試算では、今後50年間で14.9億円程度の費用の節約が可能です。

また、橋梁の寿命も10年から50年以上延命できると言われており、上手に管理すれば100年以上に延ばすことも可能です。

傷んでいる箇所を早期に発見し対応することで、補修の範囲や方法、材料費なども少なくなり、右のグラフのように維持・修繕のための費用を節約することができます。

今後の方針

橋梁修繕計画による効率的な工事の実施

令和元年度から、野洲市長寿命化修繕計画に基づき、補修設計・補修工事の実施に努めています。

持続的なマネジメントサイクルの確立

今後も、点検～計画～修繕の実績を蓄積し、将来予測の精度向上を図るとともに、予報保全によるコスト削減を継続的に行います。

日常的な予防保全への取り組み

道路パトロール等により異常の早期発見に努めます。また、得られた損傷・補修データ等を記録管理します。

集約化・撤去の検討

令和10年度までに、周囲に迂回路があり交通量の少ない3m未満の橋梁について、必要性を精査し、橋梁の撤去や集約化を検討することで将来的な維持管理コストを3,000千円程度削減することを目指します。

新技術等の活用

令和10年度までに、長寿命化修繕計画の対象とする橋梁330橋のうち、5%について新技術の活用し、従来技術と比較して2,000千円程度削減することを目指す。

学識経験者への意見照会

「野洲市橋梁長寿命化修繕計画」の策定には、橋梁マネジメントの専門家である立命館大学 理工学部環境都市工学科 野阪克義 教授にご指導・ご助言を頂いております。

■ : 現在 ■ : 20年後

20年後には建設後50年を越す橋梁が全体の約92%に増加

